

## 2025 年度「APU データサイエンスプログラム（基礎）」の自己点検・評価

### 1. 自己点検・評価実施の背景

政府の「AI 戦略 2019～人・産業・地域・政府全てに AI～」(令和元年 6 月 11 日統合イノベーション戦略推進会議決定)では、その目標として「デジタル社会の基礎知識(いわゆる「読み・書き・そろばん」的な素養)である「数理・データサイエンス・AI」に関する知識・技能、新たな社会の在り方や製品・サービスをデザインするために必要な基礎力など、持続可能な社会の創り手として必要な力を全ての国民が育み、社会のあらゆる分野で人材が活躍することを目指す」ことが掲げられている。

このような情勢を受けて、本学でも「APU データサイエンスプログラム（基礎）」として、2022 年度秋 semester には「特殊講義（共通教養科目）」、2023 年度秋 semester には「情報リテラシー」をオンデマンド形式で開講した。本プログラムは令和 5 年 8 月 25 日付で文部科学省より数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（リテラシーレベル）として認定されている（「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（リテラシーレベル）の認定について」（2023 年 9 月 20 日 APU 常務会））。

本教育プログラムの質を保証し、更なるプログラム改善をするために、授業評価アンケートと独自アンケートの集計と分析結果を報告し、以下に自己点検・評価を実施する。

### 2. 「APU データサイエンスプログラム（基礎）」自己点検・評価

#### (1) 科目概要

講義名	2025 年度 開講クラス 【春 semester】 情報リテラシー EB 情報リテラシー JA 情報リテラシー JB 情報リテラシー JD 【秋 semester】 情報リテラシー EA 情報リテラシー EC 情報リテラシー JC
分野	共通教養科目（世界市民基盤分野）
配当セメ	100 番台
履修対象	2023 年 カリキュラム全学部 1 semester 生

履修登録方法	1 セメスター生の自動登録科目として、大学が事前に履修登録を行う。学生自身が履修の必要がないと判断した場合は、履修登録 B 期間および修正 1 期間で取消可能。取消後に再度自身で履修登録することも可能。 2 セメスター以上、2 回生以上編転入学生は履修不可。
開講言語	日・英
定員	300 名
開講形態	オンデマンド
成績評価	P/F
開講セメスター	春/秋セメスター
授業概要 (シラバスより)	このコースでは、インターネットとデータサイエンスについて、基本的な概念、データ処理能力、データサイエンスへの入門知識、ビジネスへの応用と情報倫理に関する認識について、実社会の状況を踏まえながら説明します。情報リテラシー(1)インターネット、データ、社会の変化(2)データの収集、読み取り、加工、活用(3)データサイエンスにおける AI の技術動向(4)AI とデータサイエンスの応用と情報倫理に関する最新のビジネス動向を紹介しします。

## (2) 履修者状況

履修率については、下表 1 の通り 2024 年度が 77%、2025 年度が 79%となった。なお、国際学生、国内学生間での履修率については大差がない状況であった。2025 年度の国際生の履修率については前年度比で+5%上昇している結果になった。

表 1：在籍者数(1 セメスター学生)と履修率

	2024 年度			2025 年度		
	履修対象者数	履修者数	履修率	履修対象者数	履修者数	履修率
国内生	777	607	78%	820	641	78%
国際生	781	586	75%	758	604	80%
全対象者	1,558	1,193	77%	1,578	1,245	79%

## (3) 「情報リテラシー」授業評価アンケートについて

以下、2025 年度に開講された情報リテラシー 計 7 クラス分の授業評価アンケート内容を合算した一部データである。

<b>設問1：授業方法は効果的であった /</b>		
<b><u>The instructor used effective teaching methods.</u></b>		
<b>項目</b>	<b>件数</b>	<b>割合%</b>
そう思う/Agree	152	44.2
強くそう思う / Strongly agree	103	29.9
どちらとも言えない / Neutral	68	19.8
そう思わない / Disagree	16	4.7
全くそう思わない / Strongly Disagree	5	1.5
<b>設問2：学生はお互いに考え方や知識を共有することができた /</b>		
<b><u>Students could exchange their ideas and knowledge with one another.</u></b>		
<b>項目</b>	<b>件数</b>	<b>割合%</b>
そう思う/Agree	90	26.2
全くそう思わない / Strongly Disagree	67	19.5
どちらとも言えない / Neutral	66	19.2
強くそう思う / Strongly agree	65	18.9
そう思わない / Disagree	56	16.3
<b>設問3：オンライン授業が行われた場合、テクノロジーの使用は学習的効果があった /</b>		
<b><u>If online class is offered, technologies were effectively used for learning.</u></b>		
<b>項目</b>	<b>件数</b>	<b>割合%</b>
そう思う/Agree	143	41.6
強くそう思う / Strongly agree	111	32.3
どちらとも言えない / Neutral	56	16.3
そう思わない / Disagree	14	4.1
全くそう思わない / Strongly Disagree	3	0.9
<b>設問4：この授業の内容は、実社会に応用できるものであった。 /</b>		
<b><u>I found the course practically applicable to societal issues./</u></b>		
<b>項目</b>	<b>件数</b>	<b>割合%</b>
そう思う/Agree	54	52.9
強くそう思う / Strongly agree	31	30.4
どちらとも言えない / Neutral	16	15.7
全くそう思わない / Strongly Disagree	1	1
<b>設問5：この授業は学生がお互いに協働する機会を与えた。 /</b>		
<b><u>This course provided students with opportunities to collaborate with one another.</u></b>		
<b>項目</b>	<b>件数</b>	<b>割合%</b>
どちらとも言えない / Neutral	31	30.4
そう思う/Agree	25	24.5
全くそう思わない / Strongly Disagree	20	19.6
そう思わない / Disagree	16	15.7
強くそう思う / Strongly agree	10	9.8

#### (4) 自己点検・評価

本年度の授業に関する学生アンケートの結果から、多くの学生が授業方法やオンライン授業でのテクノロジー活用について肯定的に評価していることが確認できた。「授業方法は効果的であった(Q1)」では、「強くそう思う」「そう思う」を合わせて74.1%となり、授業設計や教材提示の方法

について概ね高い評価を得ていることがわかる。また、「オンライン授業でのテクノロジー使用は学習的効果があった（Q3）」でも 73.9%が肯定的に回答しており、オンデマンドを含むデジタル教材の活用が学習を支える形で機能していると考えられる。

一方で、「学生同士の考え方や知識の共有（Q2）」や「学生同士が協働する機会があった（Q5）」については、肯定的回答がそれぞれ 45.1%, 34.3%と他の設問と比べて低い傾向にある。特に「全くそう思わない」「そう思わない」の否定的回答が両設問で約 35%前後存在しており、オンデマンド形式の授業特性上、学生同士の交流や協働の機会が限定的であったと感じた学生が一定数いたと考えられる。

授業内容については、「内容が実社会に応用できる（Q4）」に対し肯定的回答が 83.3%と非常に高く、多くの学生が授業内容を日常生活や社会課題に関連付けて理解できていたことがわかる。昨年度同様、インターネットやデータ活用、AI といった身近で実践的なテーマが学生にとって理解しやすく、学修の動機付けにもつながったと考えられる。

総合すると、本授業は「自身のペースで学べる」「実社会との関連が明確である」といった点で高く評価されており、オンデマンド型授業の強みが引き続き発揮された結果となった。一方で、学生同士の交流・協働に関する項目が相対的に低いことから、今後はオンライン上でも相互交流が可能となる仕組みづくりや学修者間のインタラクションを補完する工夫の導入が求められる。

2026 年秋 semester から、数理・データサイエンス・AI 教育プログラムの応用基礎レベル申請を見据えた新科目の開講が予定されており、2027 年度には当制度の応用基礎レベルへの申請を行う予定となっている。今回のアンケート結果から得られた学生の学習ニーズや評価、改善点を踏まえつつ、今後はより高度で体系的な数理・データサイエンス・AI 教育の実践を推進していきたい。

以上